


埼玉高教組
ニュース

発行 埼玉高等学校教職員組合
〒330-0062
さいたま市浦和区仲町3-13-10
ヤギンタビル4F


くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

NO. 652

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojitu@maple.ocn.ne.jp

年内差額支給のため一時金の較差支給提案を撤回！**2022年11月29日 第2回地公労確定交渉報告****◆第2回目の交渉経過**

冒頭、小野寺総務部長は、『職員の能力や実績を適正に評価し、それを処遇に反映させる方向性については維持するが、差額の年内支給のためにはここで組合側の了解は得られないと判断し、提案を撤回する』と回答した。人事委員会は0.1月分一時金をアップせよ、と勧告したのに、県当局は評価によって勤勉手当の支給率に差をつけ、通常の評価の職員に対しては0.1を下回る提案をしてきたのだが、これに対して組合側は一貫して反対を繰り返したため、妥結出来ないと判断した上での部長の回答であった。

また、月例給のアップについては、常勤職員のみで会計年度任用職員については4月に遡ってのアップはせず、来年度4月からの反映という回答になった。県当局は、常勤職員も会計年度任用職員も『人事委員会勧告の対象である』と回答しているにも関わらず、1年毎の有期契約であること、昨年度のダウン勧告の際には年度途中で適用しなかった「実績」を盾にして、先送りするという回答を繰り返した。

この点については参加者から異論が噴出したが、県当局は私たちを納得させる回答をすることが出来なかった。

そもそも、昨年度のダウン勧告を会計年度任用職員に適用しなかったのは、労働契約法第9条の「労働条件の不利益変更の禁止」に抵触するからだと考えられる。4月に契約した際の賃金を下げるとは同条に抵触することになるからそれは出来ない。従って、ダウン勧告が出たとしても、途中で賃金を

下げることは出来ないので、昨年度の対応は適法だったことになる。

一方、法律は「不利益変更は禁止」しているのであって、勧告アップの場合は、4月に提示した賃金そのものが「間違っていた」わけだから、それを正すのは当然であろう。ましてや、常勤職員も会計年度任用職員も「人事委員会勧告」が適用されるのであれば尚更のことである。

今後私たちはこの「矛盾」について県当局と協議を重ねる予定であるが、残念ながらこの点については納得出来ないままに交渉は一旦終結した。

◆獲得項目（詳細は交渉終了後に紹介します）

①教員の未配置・未補充について、文科省の「産・育休代替教師の安定的確保のための加配」が本県で実施が可能であるか、国の動向を注視しながら適切に対応したい

②高齢者部分休業について、後補充の配置のためにその勤務形態などを考慮して、フルタイムも含めて検討する。そのために必要となる予算上の措置を財政関係部局と調整する

③臨時的任用職員（事務、司書、栄養）について、同一校継続配置が出来るよう運用を見直す

④R5年より、勤続40年を新設し、職専免5日を取得出来るようにする

⑤LGBTQの職員等の権利や身分を尊重するため、結婚休暇や扶養手当などの制度について、同性パートナー等も対象に含める

⑥結婚休暇の取得期間の特例（結婚の日から1年まで）を継続する

県民の日、くじら支部レクが復活!

今年は新たに大里・児玉支部でも開催

【支部レク（しぶれく）】

埼玉高教組の組合員交流行事。組合員以外にも門戸を広げている。最近では県民の日（11月14日）の恒例行事として定着している。入間支部の貸切バスによる山梨方面ツアーが代表的。紅葉に映える寺社仏閣を巡り、地域の特産品に舌鼓をうつなど「くじら大人の遠足」との別名もある。（出典：くじら用語の基礎知識）

●老舗、入間支部からの報告

実に3年ぶりの入間支部レクだ。参加者は現役にOB・OGを交えた14名、この間に私は脳卒中を患ったが、皆さんの身にも様々な変化があり、その月日の長さを痛感させられた。

さて、今回はまず、塩の山登山。標高差180mと、こんな企画にはぴったりだが、頂上からの眺めは最高！麓にある向嶽寺境内散策の後、武田信玄の菩提寺である恵林寺を訪ねた。さすがは名利、特に庭園の紅葉は今が最高！

その後レストラン鳥居平でフレンチのコースを堪能、メルシャンワイナリー、桔梗アウトレットと巡って帰途についたが、皆さんの笑顔を見ることができ、企画した者としてこれ以上の喜びはない。

来年もまたやります！あなたの参加をお待ちしています！！
（入間向陽・日比）

●新規、大里・児玉支部からの報告

数年来、入間支部レクに参加したいと思っていたが、県北から入間は遠く、集合時間に間に合わない。この悔しさを解消するべく、ならばこちらでも支部レクを立ち上げてしまえ、と支部委員会で盛り上がり、今回の実施となった。

今回のテーマは地元探訪、「聖天様と風に吹かれて」と銘打ち、妻沼聖天山参拝、利根川（葛和田）の渡船乗船、そして日本初の女医、荻野吟子にまつわる場所の見学を盛り込んだ小旅行を行った。支部レクとしては初の企画だったが、好天にも恵まれ、名所は何度行っても新たな発見があることを学べた有意義な1日だった。次回は行田・忍城、さきたま古

墳群を訪ねてみようかと、早くも次の企画に話が弾んだ。以下は参加者の声である。

○午前10時に妻沼聖天の駐車場に着き、合流。風が少し吹いていた。その後少し門前を歩き、本殿の



国宝の本殿。ボランティア解説員の説明が秀逸で、あっという間の30分間。

方へ。ボランティアの人に本殿の紹介をして頂いた。内容を聞くと実はすごいお寺だったことが発覚。詳しいことは省略する

が、庶民の想いが積もっている40年

物の作品であることが分かった。この凄さはこの記事を読んでも分からないと思うので、ぜひ妻沼聖天へ行くことをオススメする。

ご飯を食べてその後、船に乗って群馬へ。荻野吟子の生家の長屋門を見に行った。

もうこの時間には風がなくなり、とても穏やかでい



お昼は奮発して門前の割烹「千代樹」で。こんな機会では入れない老舗。田山花袋がここに逗留し、小説「残雪」の舞台にもなっている。

い天気であった。見終わったあとは土手に戻り、コーヒを片手にお菓子を食べてお茶会。

最後に荻野吟子博物館に行ったが閉館していた。とても残念！ あっという間に16時になっていて、た



船上で感じる風は心地よい。この渡船は県道代替のため無料で乗船できる。

まにはこのような時間を過ごして歴史を知ることとはとても有意義なことだと思った。次回もこのような機会があつたらぜひ参加したい。

（青年部・N）